

	岐阜大学 工学分野
学部等の教育研究 組織の名称	工学部（第1年次:510 第3年次:30） 大学院工学研究科（M:275 D:27）
沿 革	昭和17（1942）年 岐阜県立高等工業学校創立 昭和20（1945）年 岐阜県立工業専門学校に改称 昭和24（1949）年 岐阜県立医工科大学工学部設置 昭和27（1952）年 新制岐阜大学工学部設置 昭和42（1967）年 大学院工学研究科修士課程設置 平成3（1991）年 大学院工学研究科博士課程設置
設置目的等	<p>昭和17年、岐阜大学工学部の母体の一つである岐阜県立高等工業学校は、高等工業学校の新設を望む地元の声を背景に、工業技術者養成を目的として設置され、昭和20年、岐阜県立工業専門学校に改称された。</p> <p>新制大学の発足時には、岐阜県立工業専門学校は、岐阜県立医工科大学工学部として設置された。</p> <p>昭和27年、岐阜県立医工科大学工学部は、岐阜大学工学部として国立へ移管された。</p> <p>昭和42年、工業界がますます高度の専門知識を有する技術者を要求していること、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめて高等技術者の育成をはかり、もってわが国工業の飛躍的發展に寄与しようとの目的から、工学研究科修士課程が設置された。</p> <p>平成3年には、産業界のかかえている複雑な課題を科学的に解明し、創造的に、かつ柔軟に対処できる技術者・研究者を養成すると同時に、科学技術及びそれらによる生産物等の構成要素を相互に関連づけ合理的、かつ系統的に新しい工学を創造するための理論・手法を修得したシステム産業開発型技術者・研究者の養成を目的として、工学研究科博士課程が設置された。</p>

強みや特色、
社会的な役割

岐阜大学においては、「学び、究め、貢献する」地域に根ざした国立大学として、「教育に軸足を置いた教育・研究大学」を理念としている。この理念のもと、工学部・工学研究科は、自然と人類の共生を理想として、豊かで持続的な人間社会を目指すための教育と研究の実践の場であり、以下の強みや特色、社会的な役割を有している。

- 豊かな教養と感性に加え、新分野に適応できる基盤的能力と課題の発見・解決能力をもち、地域に貢献し世界と未来で活躍できる人材の育成を目指す。工学研究科においては、膨大な社会基盤構造物の維持管理技術や岐阜を含む東海地域の中心的産業であるモノづくりの基本をなす金型創成技術をはじめ、太陽光発電、ロボット、複合材料などの社会的ニーズの高い新技術に関する高度な技術者の育成と、幅広い応用力や開発能力を身につけた独創性ある研究者の育成の役割を果たす。
- 国内工業生産額の1/4程度を占める岐阜・東海地域の産業界から求められている国際性を備え、地域で活躍できる工学系人材の育成を目指す。海外インターンシップ、アイデアトレーニングキャンプ、自立思考型数理工学教育などの特色ある教育や、専門領域だけではなく周辺領域についても学び、語学能力を身につけることができる教育を進めてきた実績を生かし、国際的な水準を踏まえつつ、工学部・工学研究科の教育の一層の改善と充実を図る。
- 防災・環境・維持管理などに関する高い研究実績のある社会基盤工学分野、大型競争的資金の採択実績が多く新材料・水素エネルギーからスマートグリッドまでを含む未来型太陽光発電分野、地域の自動車・航空機産業から高く評価され期待が大きいCFRPなどの複合材料分野、IT・ロボット技術を活用し知的クラスター事業で多くの知財創出実績のある人間医工学分野、先進医療と高齢化社会に対応しRNA創薬研究に実績のある創薬分野など、岐阜・東海地域におけるイノベーション創出のための融合研究を推進する。
- 地域の産業界で構成される岐阜大学地域交流協力会や地域の自治体との交流の実績を生かし、社会との組織的な連携を一層推進し、地域の活性化を支援するための中核拠点を目指す。こうした社会との連携により、岐阜・東海地域の発展と産業界の高度化に貢献する。

	<p>○ 地域の自治体との連携による社会基盤構造物のメンテナンスエキスパート（維持管理技術者）の養成や、地域の商工会議所との連携による金型を用いたモノづくり若手技術者の育成などの特色ある実績を生かし、社会人の学び直しを推進する。</p>
--	--